

Title	最近日仏貿易関係資料：「日本経済発展の対仏影響」 Les conséquences du développement économique du Japon pour l'Empire Français
Sub Title	
Author	下田, 博
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1938
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.32, No.9 (1938. 9) ,p.1287(137)- 1309(159)
JaLC DOI	10.14991/001.19380901-0137
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19380901-0137

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

最近日佛貿易關係資料

——「日本經濟發展の對佛影響」(Les conséquences du développement économique du Japon pour l'Empire Français)——

下 田 博

本年四月十六日、ローマに於いて締結せられたる「英伊協定」は、イタリーのエチオピア併合に依つて生じたる諸問題の處理を其の主たる協定内容とするものであり、従つて、一見、日本にとつて殆ど無關係であるが如くである。だが、其れは、固より、單に地中海やアフリカの問題ではない。地中海の水は臆て又た太平洋や支那海にも波及する。其れは日本に對しても亦た可成り重大な種々なる影響を與へずには置かない問題である。

即ち、此の協定の主要内容の一つを成すところの「イギリスに依るイタリーのエチオピア合邦若しくはエチオピアに於けるイタリー國主權の承認」は、云ふ迄も無く、イタリーにとつて重大事項であると同時に又た、日本にとつても頗る重大なる關聯を有するものである。蓋し、フランスと共に世界の平和機關「國際聯盟」の二大支柱を以て自ら任じ、聯盟規約に規定せられたる他國領土侵略禁止の主義支持の下に、日本の滿洲事變、上海事變を罵倒し、更に又

た伊予戦争に絶対反対を唱へ、一昨年春イタリアのエチオピア攻略成功後も尙ほ、其のエチオピア併合を承認せざるのみか、遂に、大小列國を勧誘して一九三五年十月十六日對伊經濟制裁を斷行したイギリス自身が、今や、逆に、伊予併承認を國際聯盟に提唱するを約したることこそは、同時に、日本の對滿國策・對支政策の世界的承認の問題とも極めて密接なる關聯を持つものと云はなければならぬのである。然も、イタリアのエチオピアに對する所謂「侵略」並びに之が合邦をも敢へて承認したイギリスであり、又た之を主要支柱とし従つて遽かに變説を餘儀なくせられんとする聯盟である。況や、日本の滿洲に對する關係、即ち、之を併合せず、獨立國化せることに對して、之が承認を拒む理由は今や成り立ち得ざるに至つたと云ひ得るであらう。即ち、此の限りに於いて、此の協定は、誠に、日本にとつて有利なる影響を與へるものと云つて差し支へない。

併し乍ら、他方、此の協定に依つて、イギリスに取つての經濟的生命線であり、又た其の太平洋に於ける英帝國防備の咽喉に當る所の、「スエズ運河の自由」即ちイギリス海軍及び商船の地中海及び紅海航行の自由の保障の得られたることは、イギリスに取つて、實に頗る經濟的なる交通線の確保を意味するのみならず、實に其の極東への航行の容易となれることのために、其の極東に於ける英帝國權益を最も有効適切に防備し得る途を獲得したことでなければならぬ。即ち、其れは極東に多大の利害を持つイギリスをして實に之への干渉重壓の爲の一の有利なる具體的手段を確保せしめたことであり、それだけ、日本外交の將來に於ける多難を豫期せしめるものでなければならぬ。正に、此の點、此の協定の日本に對する影響は寧ろ不利であると云はなければならぬ。然も、在支イギリス權益の危殆に瀕するにつれて、イギリスの支那時局に對する干渉的態度は愈々露骨になるであらう。無論、此の事に對して、日本には充分の覺悟と成算とがあることであらう。とはいへ、此の協定に依つて、茲に、少くとも、英國の

現實主義外交に對し、極東に於ける可成り有利なる活動の餘地が與へられたことは否み難いと云はなければならぬ。

其のイギリスとの間に、フランスは、本年四月二十八、九の兩日に互つて、所謂「英佛會談」を遂げて居るが、其の會談内容は、英佛軍事協定・聯盟對策・スペイン問題・對獨政策・チェッコスロヴァキア問題・スイス中立保障問題・極東問題等、多岐に互れるものであるとはいへ、其の中心問題は、英佛軍事協定、チェッコ問題及び極東問題であつた。而して、兩國軍事提携案に於いては、實に、一旦緩急ある場合、フランスは英佛陸軍を指揮し、イギリスは英佛海軍を指揮するとの原則を確立し、其の爲の具體策として、(一)フランス領土にイギリス空軍根據地を建設する、(二)兩國は各自建造する飛行機の設計を交換する、(三)英佛兩國空軍共同使用の補給根據地を設置する、(四)原料品を含み共同の國防資源購入方を調整すること等が協定せられたのである。即ち、此の會談は、其の内容こそ廣汎多岐に互れるものではあるが、之を一貫する精神に至つては極めて明瞭。之に依つて、所謂英佛樞軸の強化を促進し、以て歐洲諸力の均衡維持を計るとともに、進んで、極東問題への干渉重壓を畫せんとするに在る。事實、今や、彼等は歐洲に於ける勢力均衡保持の爲に必死の盡力を續けつゝあると同時に又た、更に其の在支地位を有利ならしめんがために努力し、否な寧ろ、焦慮しつゝあるのである。

而して、その言動には、日本にとつて、可成り不快なるものがあるし、時に我が朝野の神經を痛く刺戟するところもある。だが、其の故に、直ちに、彼等を憎惡し排撃するの感情のみに驅られて、冷靜に熟慮し對處するを怠るのほ、大局を誤る恐れ無しとしないと同時に又た、其の故に、延いて、彼等に對する研究と理解とを兎角嫌厭し排棄するが如き態度は吾々の最も採らざるところである。斯かる狹隘偏激なる科學的態度は眞に國を憂ふる所以では

ない。寧ろ國家を誤るものである。眞に祖國を愛すればこそ、却つて、愈々、彼等に對する深き研究と理解とを進め置きて萬一に備ふるところがなくてはならぬ。我れに取つて不利なる少くとも不快なる關係に在る諸國の政治經濟事情の究明こそは、従つて、寧ろ、我れに取つて友邦的關係に在る國々の其れ以上に、緊切である。斯かる外國の社會經濟事情を知ること、即ち、實に、日本を知り、愛し、之を幸福ならしめんがためであるし、又た其れ故にこそ、外國政治經濟事情の研究は一日と雖も忽になし得可きものではない。

今茲に紹介する「日本經濟發展の對佛影響」(Les conséquences du développement économique du Japon pour l'Empire Français, 1936.)は、即ち、斯かる意味から云つて、最近の日佛貿易に關する一資料として、一讀に値す可き好著たるを失はなす。

二

本書は、フランスに於ける「外國政情研究會本部」に依つて設立せられたる「太平洋研究部會」の所産である。此の「外國政情研究會本部」は既に歐米の政治經濟事情に就いて刊行すること數冊。今や其の研究の鋒先きを太平洋問題に向けつゝある。而して、謂ふ所の「太平洋研究部會」は、ソルボンヌ大學教授デマンジェオン(Demangeon)氏指導の下に、一九三五年三月より一九三六年二月まで、定時に會合し、研鑽を遂げ、其の成果の報告書が即ち本書となつて現れたのであり、其の報告者乃至編者は「太平洋問題研究委員會」秘書課長レヴィ(Roger Lévy)氏となつてゐる。

レヴィ氏は、日佛交易中、何よりもまづ、最近のフランス海外市場に於ける日本商品の奔溢を以て一大特徴的事實と做し、従つて、其の本書に於いて企圖せんとするところは、此の事實を繞つて、種々の問題を提起しつゝ、同

時に、之が解明を期せんとするに在るのである。

編者は、斯くて、先づ、順序として、一應、日佛貿易の發展經過を以て第一章の筆を起して居るが、之に據れば、日佛貿易額は、一九一四年に凡そ十億圓であつたが、一九一八年には三十六億三千萬圓に上り、一九二五年に四十八億七千八百萬圓に達し、一九三三年には再び減少して三十七億七千八百萬圓となつたが、實に、此の頃より、フランス市場に於ける日本商品の進出乃至壓迫は驚異的となるに至つたのである。而して、編者が其の研究を限つて居る一九三五年(自一月至六月)現在に於ける、日本とフランス本國及び植民地との間に於ける貿易狀況は左表の如くである。(單位圓)

	日本よりの輸出	日本への輸入	差	引
フランス本國	23,142,41	11,003,35	+	12,910,846
印度支那	1,831,604	7,066,993	-	5,235,389
アルヂェリア	959,704	277,715	+	681,989
チュニシヤ	188,067	28	+	188,039
マダガスカル	95,021	22,908	+	72,113
セネガール	643,557	0	+	643,557
カメルーン	860,920	11,076	+	849,854
グアテマラ	2,205,630	57,791	+	2,147,839
ニユー・カレドニア	118,743	62,011	+	56,732
ギニア	949	0	+	949

最近日佛貿易關係資料

植民地小計	1927	1930	1933	1934
植民地小計	6,904,255	7,498,512	594,257	(11,741)
モロッコ	12,404,312	163,197	12,241,115	+
レヴァント諸國	5,502,839	17,905	5,484,934	+
モロッコ及びレヴァント諸國小計	17,907,151	181,102	17,726,049	+
フランス本國及び植民地小計	30,818,496	18,502,407	12,316,089	+
モロッコ及びレヴァント諸國小計	17,907,151	181,102	17,726,049	+
合計	48,725,647	18,683,509	30,042,138	+

即ち、之に依つて観るに、日本は、其の歐洲に於ける第二の顧客たるフランス本國及び其の植民地の大半に對して出超、佛領印度支那に對して入超の状態に在るのである。然らば、其の貿易の内容はどうか。先づ、日本の輸出品としては、絹及び絹織物、人絹類、綿織物、綿製品及び頭巾靴下シャツ類、羊毛、雑詰及び乾物、護謨靴等が主なるものであり、其の輸入品中主要なるものは、フランス本國からの機械(其中首位を占むるものは紡織用具であり、之に次いで木製及び金屬製器具類・製糖用具・發動機・ポンプ・諸部分品等が主なるものである)、化學工業品、揮發油及び諸香料、並びに、印度支那からの石炭、米穀及び護謨等之である。

而して、編者は、是等各箇の輸出入品に就いて、逐一、其の貿易の盛衰の経緯を述べて居るが、其の大體の趨勢は、最近に於ける極めて顯著なる日本工業の高度化と共に、日本の輸出品中精製品の増加せること、同時に、日本の原料品乃至機械類輸入の激増したことに在ると云つて差し支へなからう。

即ち、印度支那及びフランス本國からの輸入品中、石炭及び機械の占むる割合は、左表の示す如く、巨額に上つ

てゐる。

印度支那よりの輸入	1927	1930	1933
米	25,152,000	29,000	57,000
石炭	5,336,000	5,950,000	6,037,000
綿	908,000	605,000	110,000
フランス本國よりの輸入			
染料	249,000	198,000	579,000
毛織物	9,336,000	752,000	2,000
綿織物	395,000	143,000	10,000
毛織物	917,000	263,000	51,000
機械	2,080,000	3,517,000	3,442,000
其他	599,000	245,000	26,000

實に、我が國に對するフランスの輸出品中、フランス本國の機械及び殊に印度支那の石炭は、斷然、諸他の輸出品を壓してゐる。編者が特に我が國に對する此の方面の貿易進展に重點を置き、其の發展の必要を強調して居る所以であるが、併し、フランスから日本に輸出される機械は日本に輸入される機械の二パーセントに過ぎず、又た印度支那からの石炭として日本に輸入される石炭の十パーセントに過ぎぬ。然も、日本工業品のフランス市場への進出は誠に驚異的である。殊に、フランス本國を始め、ソマリ、モロッコ及び就中レヴァント諸國に於ける日本商品の進展には目覚ましきものがある。抑々、之は何に由るか。

編者は、茲に於いてか、第二章に於いて、日佛兩國の關稅制度に就いて觀察し、併せて日本商品の發展理由に就

いて若干の考察を加へて居る。而して、日佛兩國の關稅制度の中、編者は、フランス特に其の植民地の關稅制度に注目し、之を(一)グアドループ、マルティニーク、レユニオン、印度支那、マダガスカル等の如く、本國關稅制度と略ぼ同一の制度を採れるもの、(二)西アフリカ、ニュー・カレドニア、ガボン、オセアニア、サン・ピエール等の如く、外國商品に對して高き關稅障壁を設け、以て専らフランス本國の商品移出に有利なる制度を採れるもの、(三)レヴァント諸國、モロッコ、トーゴ、カメルーン等の委任統治地の如く、國際的關稅制度を採れるもの、及び(四)カリカル、ボンデイン、シェリイの如く、無關稅自由港たるもの(従つて、其處では、日本商品は、ダイヤモンド・マッチ・アルコール・葡萄酒・サイダー・ビール等、極く少數の商品以外は、全然、輸入税も消費税も課せられない)の四種に分ち、夫々に就いて詳細なる調査を遂げ、以て、フランス關稅制度が一九三〇年以來、日本商品の進出に對して其の本國及び植民地を保護すべく調整せられ來つたと云へ、尙ほ其のフランスの爲に改善すべき諸點を指摘し、之が實施を要望して居るのである。併し乍ら、日本商品の進出如何は、單に、フランス本國及び其の植民地に於ける關稅障壁の有無高低の如何に依つてのみ左右せらるべき問題ではない。日本商品の進出理由は更に別の所に求められねばならぬ。即ち、編者が特に「日本飛躍の諸原因」なる項目の下に、此の問題を検討して居る所以であるが、其の歸するところは、編者も認むるが如く、日本商品の「未だ嘗て彼等の知らざる」程の「良質にして且つ廉價」たることに在ると云つて宜しからう。

即ち、正に、此の事の故にこそ、日本商品は、常にフランス市場を壓迫して居るのみならず、實に世界市場に於いてフランス商品を驅逐しつゝあるのである。而して、編者は、此の世界市場に於ける日佛競争の問題を、第三章に於いて取扱つて居るのである。

そこで、先づスペインに輸入せられる日佛兩國の商品若干に就いて比較して見やう。

品名	數量				價			
	1932	1933	1934	1932	1933	1934	1932	1934
總 入 總 額	1,067,791 (100)	984,364 (100)	1,037,166 (100)	107,153,273 (100)	93,414,326 (100)	92,331,122 (100)		
フ ラ ン ス	97 (0%)	94 (0%)	158 (0%)	3,807 (0%)	5,867 (0%)	10,073 (0%)		
日 本	— (0%)	337 (0%)	2,848 (0.3%)	— (0%)	10,053 (0%)	172,345 (0.2%)		
總 入 總 額	2,006 (100)	1,134 (100)	1,965 (100)	18,312 (100)	10,461 (100)	16,448 (100)		
フ ラ ン ス	163 (8.1%)	174 (15.3%)	280 (14.2%)	2,109 (11.5%)	1,660 (15.9%)	2,532 (15.4%)		
日 本	— (0%)	319 (28.1%)	887 (45.1%)	— (0%)	2,502 (23.0%)	6,471 (39.3%)		
總 厚								
輸 入 總 額	7,557 (100)	10,473 (100)	29,378 (100)	19,388 (100)	13,645 (100)	39,897 (100)		
フ ラ ン ス	305 (4.0%)	21 (0.6%)	676 (2.3%)	291 (1.5%)	54 (0.4%)	2,093 (5.3%)		
日 本	— (0%)	— (0%)	2,293 (7.8%)	— (0%)	— (0%)	2,122 (5.3%)		

最近日佛貿易關係資料

東京田嶋貿易株式會社

一四六 (1116米)

人絹屑		絹糸		管		襪		靴	
輸入總額	1,381,696 (100)	1,105,596 (100)	1,369,540 (100)	2,173,678 (100)	1,399,721 (100)	2,204,856 (100)	40,877 (100)	1,691 (4.1%)	40,877 (100)
ラソス	91,540 (6.6%)	137,886 (12.5%)	223,153 (16.3%)	62,161 (2.9%)	111,855 (8.0%)	331,835 (15.0%)	152 (0.2%)	341 (0.6%)	152 (0.2%)
日本	12,832 (0.9%)	48,041 (4.3%)	92,869 (6.8%)	12,024 (0.6%)	42,779 (3.1%)	75,928 (3.4%)	82 (0.1%)	1,002 (1.7%)	82 (0.1%)
輸入總額	61,187 (100)	58,366 (100)	159,353 (100)	1,268,585 (100)	926,422 (100)	1,592,236 (100)	66,941 (100)	55,625 (100)	66,941 (100)
ラソス	40,310 (65.9%)	26,148 (44.6%)	47,920 (30.1%)	734,379 (57.9%)	423,577 (45.7%)	511,488 (32.1%)	152 (0.2%)	341 (0.6%)	152 (0.2%)
日本	82 (0.1%)	1,002 (1.7%)	42,137 (26.4%)	1,146 (0.1%)	20,003 (2.2%)	332,259 (20.9%)	82 (0.1%)	1,002 (1.7%)	82 (0.1%)
輸入總額	66,941 (100)	55,625 (100)	68,800 (100)	539,605 (100)	520,269 (100)	427,275 (100)	40,877 (100)	41,356 (100)	40,877 (100)
ラソス	152 (0.2%)	341 (0.6%)	2,695 (3.9%)	1,368 (0.3%)	3,020 (0.6%)	23,983 (5.6%)	152 (0.2%)	341 (0.6%)	152 (0.2%)
日本	— (0%)	1,088 (2%)	9,667 (14.1%)	— (0%)	2,992 (0.8%)	24,779 (5.8%)	— (0%)	1,088 (2%)	— (0%)
輸入總額	40,877 (100)	41,356 (100)	40,194 (100)	185,316 (100)	159,401 (100)	176,906 (100)	40,877 (100)	41,356 (100)	40,877 (100)
ラソス	1,691 (4.1%)	629 (1.5%)	320 (0.8%)	8,261 (4.3%)	2,730 (1.7%)	1,051 (0.6%)	1,691 (4.1%)	629 (1.5%)	1,691 (4.1%)

セルロイド製靴		セルロイド製品		電信機		ラソス		日本		電球	
輸入總額	752 (100)	397 (100)	2,649 (100)	21,590 (100)	10,080 (100)	27,278 (100)	468 (62.2%)	49 (6.5%)	468 (62.2%)	49 (6.5%)	4,233 (100)
ラソス	468 (62.2%)	156 (39.3%)	432 (16.3%)	14,271 (66.1%)	4,202 (41.7%)	9,335 (34.2%)	903 (11%)	1 (0%)	903 (11%)	1 (0%)	2,931 (100)
日本	— (0%)	— (0%)	1,803 (68.1%)	701 (3.2%)	— (0%)	10,915 (40%)	903 (21.5%)	90 (3.1%)	903 (21.5%)	90 (3.1%)	590 (19%)
輸入總額	4,233 (100)	2,931 (100)	4,187 (100)	77,267 (100)	56,925 (100)	58,232 (100)	763,131 (100)	875,872 (100)	1,439,561 (100)	9,465,579 (100)	16,119,186 (100)
ラソス	6,884 (0.9%)	4,665 (0.5%)	12,220 (0.8%)	245,284 (2.6%)	192,159 (1.9%)	235,933 (1.8%)	6,884 (0.9%)	4 (0%)	6,884 (0.9%)	4 (0%)	4,233 (100)
日本	— (0%)	4 (0%)	69 (0%)	— (0%)	49 (0%)	612 (0%)	— (0%)	— (0%)	— (0%)	— (0%)	2,931 (100)
輸入總額	13,621 (100)	10,386 (100)	8,204 (100)	771,462 (100)	713,760 (100)	531,560 (100)	13,621 (100)	10,386 (100)	8,204 (100)	771,462 (100)	16,119,186 (100)

東京田嶋貿易株式會社

一四七 (1116米)

フランス	1,447 (10.6%)	1,579 (15.2%)	1,217 (14.8%)	56,532 (7.3%)	81,969 (11.4%)	57,295 (10.8%)
日本	190 (1.4%)	1,094 (10.6%)	1,830 (22.3%)	3,090 (0.4%)	18,139 (23.5%)	29,137 (5.5%)

右の表に依つて明らかなるが如く、スペイン市場に於けるフランス商品は、特殊のものを除くならば、漸次に、日本商品に依つて駆逐せられつゝある。殊に、一九三三年以來、圓價の低落は、日本商品の輸出に取つて極めて有利なる條件を提供せるものであり、同年以降の日本商品の進展には、爲に、誠に、驚異的なものがある。

次に、イギリスに輸入せられる日佛兩國の商品に就いて比較して見やう。周知の如く、イギリスは日本に取つて歐羅巴に於ける「最良の顧客」である。此の國に輸入せられるフランス商品が、數年以來、激減したにも拘らず、日本商品は、大體に於いて、現状を維持しつゝあつた。尤も、フランスの失へる地歩が獨り日本に依つてのみ獲得せられたのではなく、其處には各國の競争が繰り擴げられつゝあつた。唯だ、併し乍ら、織物、殊に、絹織物に關する限り、日本の輸出は、斷然、フランスを壓倒して居ること左表の示す如くである。

フランスからの輸出	1928	1930	1932	1934	(單位 壹百萬平方ヤード)
日本からの輸出	21	20 ³ / ₄	8 ¹ / ₄	6	
日本からの輸入	132	12	10 ¹ / ₂	16 ¹ / ₂	

更に、アメリカに輸入せられる日佛兩國の商品に就いて比較して見やう。

(一) 模造眞珠(Pearls imitations)の輸入	1932	1933	(單位 卍)
輸入總額	191,214	165,372	

フランスからの輸入額	2,081	540
日本からの輸入額	156,637	131,176

即ち、アメリカに輸入せられるフランスの模造眞珠が市場から殆ど姿を没せんとして居るに反して、日本の其れはアメリカに於ける模造眞珠輸入總額の凡そ八十一パーセントを占めて居るのである。

(二) 眞珠母の卸の輸入

大戦中、日本は眞珠母の卸に就いては全くアメリカの市場を獨占した。併し乍ら、一九二〇年を境として、爾來、アメリカに於ける此の商品の輸入總額は凡そ五十パーセント以上の減少を來した。而して、フランスが其のアメリカへの輸出を回復したのは凡そ一九一九年頃からであるが、總て、一九二八年以來、アメリカに於ける此の商品の輸入總額は激減するに至つたのである。然も、此の間、日本の輸出額が漸増の状態を續けて居ること左表の示す如くである。

輸入總額	1919	1920	1928	1932	1933	(單位 卍)
フランスからの輸入額	1,228,743	1,981,235	489,069	319,710	325,623	
日本からの輸入額	824	7,388	17,756	425	2,306	
日本からの輸入額	1,175,509	1,947,404	32,402	49,903	73,965	

(三) 陶器並びに磁器の輸入

アメリカに於ける陶磁器の輸入は、一九一九年及び一九二〇年に於いて頗る巨額に上つて居つたが、一九二〇年を境として、爾來、漸減の傾向を辿り而して一九三三年に至つて再び稍々増加して居るが、其の間、フランスからの輸出は甚だ不振の状態に在り、殊に陶器に於いて然ること、左表の示す如くである。

(イ) 陶器(家道具)の輸入

	1919	1920	1922	1923	(單位弗)
輸入 總額	2,735,197	4,256,774	1,299,035	1,316,833	
フランスからの輸入額	16,368	51,559	16,742	19,646	
日本からの輸入額	227,220	646,522	314,049	681,584	

(ロ) 磁器(食器及び家道具)の輸入

	1919	1920	1922	1923	(單位弗)
輸入 總額	4,112,157	6,697,039	1,827,217	2,300,620	
フランスからの輸入額	783,660	609,510	84,977	52,111	
日本からの輸入額	2,042,055	4,165,439	829,404	1,269,164	

即ち、之に依つて、フランスからの輸入が不振なるに反して、實に、日本からの輸入が、アメリカに於ける是等商品の輸入總額の増加に比例して増加の趨勢に在り、殊に、日本からの磁器の輸入に至つては、アメリカに於ける磁器輸入總額の大半を占めて居ることが知られ得るであらう。

(四) 人形並びに諸他の玩具の輸入

アメリカに於ける人形並びに諸他の玩具の輸入は、日本及び獨逸からが斷然多い。大戰後、一時、フランスの人形並びに玩具が、アメリカ市場に於いて、第二位ではあるが、極めて重要な地位を占むるに成功したが、最近に於いては、フランス人形の對米輸出は頗る微々たるものであり、フランス玩具の其れに至つては、全く、衰滅の状態に在る。

(イ) 人形及び其の材料の輸入

	1919	1920	1922	1922	1923	(單位弗)
輸入 總額	1,233,344	2,839,532	970,332	505,642	334,755	
フランスからの輸入額	20,432	20,167	21,186	693	1,166	
獨逸からの輸入額	451,626	1,051,367	721,019	248,633	137,451	
日本からの輸入額	742,537	1,705,348	129,674	246,197	167,504	

(ロ) 諸種の玩具の輸入

	1919	1920	1922	1922	1923	(單位弗)
輸入 總額	1,719,975	7,898,162	3,287,749	1,980,334	1,551,357	
フランスからの輸入額	66,037	164,688	136,593	23,341	17,328	
獨逸からの輸入額	531,904	3,186,656	2,433,900	1,213,644	756,090	
日本からの輸入額	1,010,209	3,955,051	273,038	542,043	689,796	

(五) 織物の輸入

アメリカに輸入せられる日佛兩國の織物に就いて觀るに、フランスの織物は、日本・獨逸・チェコスロヴァキア及び諸他の國々の其れに比して極めて高價であり、又た、一般に、高級高價品こそがフランスの獨壇場であるのに反して、廉價品に於いては、日本が、斷然第一位を占めて居り、而して斯かる方面に於いて日本が漸次にフランスを壓倒しつつあること左表の示すが如くである。

(イ) 刺繍細工物類の輸入

最近日佛貿易關係資料

一五二 (一三〇三)

輸 入 總 額	1932			1933		
	1928	1932	1933	1928	1932	1933
輸 入 總 額	1611.510	127.057	117.753			
フランスからの輸入額	1,158,031	44,446	43,782			
日 本からの輸入額	64,988	10,291	14,225			
(ロ) 絹織物類の輸入						
輸 入 總 額	1928	1932	1933	1928	1932	1933
輸 入 總 額	8,680,346	2,025,050	2,381,252			
フランスからの輸入額	3,642,685	402,979	665,867			
日 本からの輸入額	775,061	1,286,687	1,401,400			
(ハ) 木綿掛布類の輸入						
輸 入 總 額	1932	1933	(單位弗)			
輸 入 總 額	3,307,819	3,515,373				
フランスからの輸入額	1,489,826	1,368,795				
日 本からの輸入額	599,838	1,146,279				

尙ほ、蘭領印度に輸入せられる日佛兩國の商品に就いて比較して見やう。

大戰前、一九一三年頃、蘭領印度には未だ日本商品の輸入せられるもの少く、其の輸入額は七百萬フローリン、即ち蘭領印度に於ける輸入總額の凡そ一、六パーセントを占むるに過ぎなかつたのであるが、一九三一年乃至一九三四年に至るや、「日本に依る當市場の全き侵略」が行はれ、而して一九三四年に於いては、蘭領印度に對する輸出

に於いて、日本は、斷然、諸他の國々を壓倒し、和蘭をも押退けて、實に、筆頭に位するに至つたのである。然るに、之に對して、フランス商品は、其の需要の特殊なること、及び殊に其の原價の高價なることのために、蘭領印度の土民六千萬の一般的消費に適合し兼ねる状態に在り、斯くて從來蘭領印度に大なる販路を持ち得なかつたのであるが、わけも、一九三一年乃至一九三四年に至り、既述の如き日本商品の顯著なる進出に依つて、全く致命的打撃を蒙れること、左表の示すが如くである。

蘭領印度に於ける輸入狀況 (單位フローリン)

輸 入 總 額	1919		1921	
	輸 入 總 額	輸入總額の %	輸 入 總 額	輸入總額の %
輸 入 總 額	638,056,000		1,077,854,000	
和蘭からの輸入額	88,359,000	13%	269,742,000	25%
日本及び臺灣からの輸入額	77,075,000	12.07%	86,095,000	7.97%
フランスからの輸入額	4,830,000	0.7%	3,801,000	0.8%
輸 入 總 額	1923	1925		
輸 入 總 額	612,057,000	818,371,000		
和蘭からの輸入額	128,678,000	149,951,000		
日本及び臺灣からの輸入額	49,698,000	90,098,000		
フランスからの輸入額	4,699,000	9,441,000		

最近日佛貿易關係資料

一五四 (一三〇四)

	1927	1929
輸入總額	858,015,000	1,052,326,000
和蘭からの輸入額	150,321,000	185,783,000
日本及び臺灣からの輸入額	90,120,000	114,835,000
フランスからの輸入額	11,592,000	10,565,000
	輸入總額の 17.5%	輸入總額の 17.75%
	10.5%	10.9%
	1.3%	1%

	1931	1934
輸入總額	548,600,000	291,883,000
和蘭からの輸入額	83,910,000	37,859,000
日本及び臺灣からの輸入額	92,420,000	92,985,000
フランスからの輸入額	6,012,000	2,678,000
	輸入總額の 15.29%	輸入總額の 13%
	16.84%	31%
	1.10%	1%

最後に、シヤム及びオーストラリアに輸入せられる日佛兩國の商品に就いて比較して見るに、シヤム市場に於ける日本織物の歴史的に優勢なることは、一九三三年乃至一九三四年に於いて、シヤムの織物總輸入額が凡そ一百萬テイカル(tons)増大し、然もフランスを始め諸他の國々からの輸入が減少せるとき、獨り日本からの輸入のみが、輸入總額の増大に比例して増大せる事實を以て知り得るし、又オーストラリアに於ける織物の輸入に於いて、日本が、斷然、フランスを凌駕せること、フランス絹織物の輸入が一九三〇年乃至一九三一年に三十四萬八千リイヴルなりしものが一九三四年乃至一九三五年に八萬三千三百五十リイヴルに激減せるに反し、日本の其れが一九三〇年乃至一九三一年に一百五十二萬一千リイヴルなりしに一九三四年乃至一九三五年に一百八十五萬一千リイヴルに

増大せる事實を以て確言し得るのである。

之を要するに、近來、世界市場に於ける日佛兩國商品の角逐に就いて觀るに、日本商品が躍進の一路を辿りつゝあるに反して、フランス商品は、之が爲に壓倒せられ、次第に衰退への途を辿りつゝある。然も、嘗に、フランスの海外市場に於いてのみならず、其の國內及び殊に植民地市場に於いても亦た、日本商品の之を捲席するの勢たるや、誠に、目覚ましきものがある。

斯くの如き日本商品の躍進には、固より、種々なる理由があらう。併し乍ら、其の一主要原因が、日本商品の「廉價」に在ること、既述の如くである。然らば、斯かる低廉なる價格を構成するものは何か。茲に於いてか、編者は、本書の「結論」に於いて、必然、日佛兩國商品の元價、従つて、之が主要構成要素たる兩國労働者賃銀の比較研究に及んで居るのである。

第一表 東京に於ける各種労働者一日の平均賃銀 (一九三五年一月現在單位圓)

男 工	賃銀
旋盤工	四、七六
機械工	四、六四
機械模型製作工	四、七九
鑄金工	四、一〇
磁器工	二、〇六
皮革工	三、〇四
燐火工	一、〇〇
編物工	二、二〇

最近日佛貿易關係資料

一五五 (一三〇五)

第二表 巴里地方に於ける各種労働者一日の平均賃銀 (一九三五年十月現在單位フラン)

(日本内閣統計局調)

職業	男	女
製糖工	二、二二	
製粉工	一、九三	
鋸詰工	一、五七	
縫工	二、〇〇	
石工	二、六七	
油漆工	二、三四	
指物工	一、八五	
印刷工	三、九五	
人夫	一、五二	
絹絲繰工		〇、七二
絹絲剪毛工		〇、七七
絹機織工		一、二五
綿機織工		〇、七三
燐火工		〇、六五
編物工		一、二〇
人夫		〇、七七
植字印刷工	四九、二〇	

製本工	四〇、四〇
衣服縫工	四四、〇〇
木旋盤工	五〇、〇〇
唐木細工	四七、〇〇
大工	四七、〇〇
指物工	四七、〇〇
鑄鉛工	五〇、〇〇
鍛鐵工	四八、八〇
鍛冶工	四八、〇〇
金屬旋盤工	四八、四〇
電氣機械組立工	四八、〇〇
時計工
石截工夫 (Carier)	五〇、〇〇
石截職人 (Tailleur de pierres)	七四、〇〇
石工	五一、〇〇
土工	五〇、〇〇
土工	五〇、〇〇
屋根師	五〇、〇〇
建物油漆工	四八、〇〇
彫刻師	五七、〇〇
硝子張職人	四九、〇〇

最近日佛貿易關係資料

(フランス一般統計局調)

右の表に據つて観るに、東京に於ける各特殊技能を有する男工一日の賃銀は二圓乃至五圓、即ち凡そ十フラン乃至二十五フランであり、同じく女工の其れは七十錢乃至一圓二十五錢、即ち三フラン五十乃至六フラン二十五であるに對して、巴里地方に於ける各専門男工一日の賃銀は概して大約五十フランであり、同じく女工の其れは平均十八フランである。即ち、男女工を通じて、フランスの賃銀は日本の其れよりも高い。殊に、日佛兩國の石工の賃銀の如きに至つては、フランスの石工の賃銀は日本の其れに正に四倍に値してゐる。併し乍ら、是等の統計は、日佛兩國に於いて、一般に比較的高い賃銀を支給せられてゐる部に屬する労働者を基礎として作製せられたるものなるが故に、其の數字を以て兩國全労働者の平均賃銀を表すものと做すことは許されない。即ち、編者が、更に、日佛兩國労働者賃銀の一般水準を示す統計を提示せる所以であるが、其れに従へば次ぎの如くである。

賃銀の一般水準統計

(1) フランス (單位：フラン)

業種	賃業	金屬工業 巴里地方	巴里		巴里以外の諸都市			
			男工	女工	主として専門男工	主として専門女工		
時間給額	日給額	時間給額	日給額	時間給額	日給額	時間給額	日給額	
1927	31.30	4.44	5.12	41.70	3.31	27.34	1.81	14.84
1928	30.91	4.77	5.25	42.75	3.45	28.44	1.97	16.06
1929	34.29	5.45	5.10	49.56	3.83	31.34	2.26	18.30
1930	37.01	5.79	5.64	53.99	4.08	33.66	2.42	19.79

1931	35.68	5.74	6.61	53.83	4.08	33.66	2.42	19.79
1932	32.83	5.47	6.34	50.72	3.99	32.54	2.35	19.03
1933	32.53	5.57	6.34	50.72	3.89	31.70	2.26	18.18
1934	32.61	5.54	6.34	50.72	3.89	31.70	2.28	18.38

賃質賃銀指數 (1929=100)

1927	—	88	91	91	—	—	—	—
1928	—	94	92	92	—	—	—	—
1929	—	100	100	100	—	—	—	—
1930	100	101	104	104	100	100	100	100
1931	99	103	106	107	103	103	103	103
1932	98	106	110	108	108	107	107	106
1933	101	109	111	109	109	108	107	105
1934	106	110	112	110	114	113	113	111

(1) 日 本 (單位：圓)

業種	賃業	工業		運輸業	
		男工	女工		
時間給額	日給額	時間給額	日給額	時間給額	日給額
1927	173.0	253.8	99.0	195.7	171.6
1928	179.9	259.6	100.3	204.2	186.2

最近日佛貿易關係資料